

2023年8月発行

東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニューズレター

vol. 26

りかづみ家



歯を黒く染める化粧法。その歴史は古く、時代によって施す意味が異なる **お歯黒**

特集 / 企画展示

粧いの道具展

—昔の道具展 2023—

pick up!

端午の節句展
おりがみ展

歴史コラム

日下の嘶「安岡正篤氏旧宅」

河澄家の自然 藍



展示・イベントのご案内



展示・イベント

「粧いの道具展」

2023年5月30日(火)～2023年9月24日(日)

「切り絵展」

2023年7月22日(土)～2023年8月20日(日)

「理科モノづくり教室」

2023年8月5日(日)

「東大阪の町工場・工場写真家川勝親氏講演会」

2023年8月6日(日)

「論語の素読会」

毎月第2・第4土曜日

※休館日・開場時間等はP12「イベントカレンダー」にてご確認ください。



東大阪市指定文化財 旧河澄家 ニューズレター

目次

04 特集 粧いの道具展 -昔の道具展 2023-

日本の化粧の歴史と河澄家に伝わる化粧道具について展示解説

06 日下の嘶 安岡正篤氏旧宅

戦後日本の指導者・思想家の旧宅

08 イベントレポート

春季ハイキング

郷土の歴史講座

古民家で手作り和菓子体験

特別講演 人形浄瑠璃の世界

生駒山自然観察ウォーキング

近畿大学峰滝ゼミ REPORT 鯉のぼり紙飛行機作りとコンサート

10 Pick Up

端午の節句展

おりがみ展

12 イベントカレンダー



旧河澄家の自然

アイ

藍 / タデアイ(夢藍) / アイタデ(藍夢)

タデ科 イヌタデ属 一年草

今年は枯山水のお庭の南側の畑で、石切参道にある河内木綿はたおり工房さんからいただいた藍を綿と一緒に育てています。江戸時代中頃、河内木綿は、それまでの白地木綿から、織糸を染めて縞紋系の文様が考案され、色調として藍が最も多く使われました。江戸時代に広く普及した藍染は、



明治時代に日本にやってきた英国人によってジャパン・ブルーと呼ばれました。

さらに藍には薬効があり、葉は虫刺され、痔などに外用され、種子は消炎、解熱、止血などに服用されました。

収穫した新鮮な藍の葉をたたき染めにすると、スタンプのように見事に葉っぱの形に仕上りました。

昔の道具展 2023 粧いの道具展



河澄家に伝わる柄鏡と鏡箱



一番右下の柄鏡の鏡
面 銅鑄びによって
鏡面は何も映らない

今年度の昔の道具展は、粧（よそお）いの道具展と題して、五月三十日（火）から九月二十四日（日）まで開催しています。紅や白粉で美しく飾ることや口常のスキンケア、香り、身だしなみを整える道具、さらには正確に言うと粧いの道具とはいえない、化粧料を作る道具や一般的には薬を作るものと認識されている、薬草などを粉にする薬研（やげん）や蒸留器である蘭引（らんひき）など、庄屋屋敷に残る江戸時代以降の三十二点を展示しています。

日本の粧いの道具の歴史をひも解くと、考古学の成果からはおよそ六千百年前の福井県鳥浜古墳から出土した赤い漆塗りの櫛櫛が発見されたり、古墳時代には、顔や体に赤色顔料を施した人物埴輪が発見されたりしています。また、中国の歴史書、魏志倭人伝（三世紀）には東海中にある「黒齒國」の存在が記され、後漢書東夷伝（五世紀）には、さらに詳しく、黒齒國は：婦人は歯を悉く黒くするとあり、この時期からお歯黒の風習があったことが窺えます。白粉については、『日本書紀』持統天皇六年に元興寺の僧である沙門勸成が仏教と共に伝わった最新の技術でもつて初めて鉛白粉を作り、持統天皇に献上したことが記されています。化粧文化は、上流の女性たちのみならず、時代を追って天皇や公卿、公達、武士、さらには遊女、白拍子、歩き巫女など、中央から地方へも広まつていきました。



お歯黒道具

蘭引



鏡台



鏡台と柄鏡



鏡架と柄鏡



化粧道具入れ

蘭引は、陶磁器でできた蒸留器で、酒類や薬油を製造する装置でした。旧河澄家で展示するのは、恐らく今回が初めてです。文化十一年（一八一三）に発行され、百年にもわたる大ベストセラーとなつた総合美容読本『都風俗化粧伝』には、この蘭引を使って、当時大人気の化粧水「花の露」を製造する方法と素晴らしい効果・効能が記されており、それを読んだ当時の女性たちは大いにときめいたに違いありません。

※柄鏡は文様を見せるため、全て鏡面ではなく鏡背を向けています

河澄家の柄鏡も一番大きな柄鏡は面径およそ二十四cmあります。鏡には必ず鏡箱が付属していました。銅鏡の表面には錫アマルガムが施しており、空気中の水分や手垢によつて酸化して銅鏽びが生じ、鏡面が曇つて見えなくなります。そのため、使わない時は鏡箱にしまつておく必要があり、鏡面が見えなくなつた際には、巡回してくる鏡磨師に磨いてもらう必要があります。現在、旧河澄家にある銅鏡は全て鏽びていて鏡面は映りません。

労働に明け暮れていた庶民が化粧をするようになつたのは、一般に江戸時代からと考えられています。徳川三百年の時代は、それまでとは違い、比較的経済を安定させました。河澄家に残る粋いの道具の中でも最も多いのは鏡です。江戸時代の鏡は銅鏡で、主流となつたのは柄鏡でした。この柄鏡は室町時代に登場し、鏡面も面径十四cm程度だったものが、髪結のために、鬚（まげ）の大きさに伴つてどんどん大きくなつていつたと推察されます。

大学（現、東京大学）法学部政治学科に入学しました。この間、安岡家の養嗣子となります。

—歴史コラム—

日下之新

豊かな自然と文化の街、日下

駒山麓～日下地域、河澄家の
生駒山過去から現在に至るまでのおはなし

東京帝國大学在学中に独学で東洋哲学を修め、陽明学者として活躍しました。大正十一年（一九二七年）『東洋思想研究』を発刊したほか、翌々年『日本精神の研究』を著し、当時大きな社会運動であった大正デモクラシーに対抗して伝統的日本主義を表明します。

昭和二年（一九二三年）に伯爵酒井忠正の援助を得て、金鶏（きんけい）学園を設立します。これは国家主義的教化団体で陽明学をはじめ日本国体研究などが講じられ、学園には多くの軍人・官僚・財界人などが聽講に訪れ、会員は最盛期には一万二千人にも及びました。昭和十九年には小磯内閣の強い要請により大東亜省の顧問に就任し、昭和二十年には終戦の詔勅（しゅうせんのしょうちよく）起草に携りました。

終戦後、正篤氏は師友会（しゆうかい）を組織し、同協会において政財界の指導者たちに教化を行い、吉田茂以下歴代総理大臣の相談役として戦後保守政治的思想的支柱となります。昭和五十四年（一九七九年）の元号法案成立に際しては時の大平内閣から相談を受けており、元号「平成」の制定において正篤氏の尽力があつたと言われています。正篤氏は昭和五十八年（一九八三年）十二月に八十六歳で没しました。（参考：東大阪市教育委員会『郷土の人々』平成二十三年）

正篤氏は昭和四十九年四月二十九日に行われた孔舎衛小学校創立百周年記念の祝賀式典に卒業生として出席して挨拶しました。その挨拶の中で氏が自ら揮毫した碑文「心明く望清く（こころあかるくのぞみきよく）」について、学校当局からの原案には「心美しく、望大きく」とあったものに対し正篤氏の私見を加えて「心明く望清く」とした経緯を述べています。記念碑に刻まれた「明」と「清」は日本民族の信仰の神體であり、また環境汚染問題である公害について考えてみると、日本の自然を明るく清く取り戻すことが重要で、最終的には自分の環境から自分自身を明るく、清くすることが一番大切であると考えて行くことが根本でありまして、皆さんの生活からして一段と明と清の徳を積

安岡正篤氏（一八九八～一九八三）は、現在の大坂市中央区南船場で堀田氏の四男として生まれました。そしてすぐに河内に転住し、中河内郡大戸村の芝尋常小学校（現、東大阪市立石切小学校）に入学し、中河内郡日根市村の日下尋常小学校（現、東大阪市立孔舎衛小学校）に転校します。卒業後、大阪府立四條畷中学校（現、大阪府立四條畷高等学校）、第一高等学校を経て、東京帝国

んでいたくよう祈念いたします。それでこそわれらの日本も大丈夫であります。」と結んでいます。（参考：安岡正篤著『青年の大成』平成十四年致知出版社）



安岡正篤氏旧宅
善根寺町1丁目

「雲白く山は霞みて故郷の花の小径を辿る楽しさ」
安岡正篤氏旧宅脇には、正篤氏が「わがふるさとの地」を詠じた歌の頌徳歌碑（しょうとくかひ）が昭和六十年に建てられました。



安岡正篤氏頌徳歌碑

「雲白く山は霞みて故郷の花の小径を辿る楽しさ」



孔舎衙小学校創立百周年記念碑

安岡正篤氏揮毫

「心明く望清く」

旧河澄家にて開催しましたイベント&展示のご報告。
地域の方々と触れ合いながら様々な催しを致しました。
詳しいイベント情報はホームページにも掲載中です。

Kawazumi Report

春季ハイキング —春の草香山の自然と史跡 を訪ねよう—

—〇三年四月一日(日)開催



満開のこぶしの谷を歩く参加者

旧河澄家のハイキングではおなじみの東大阪まちガイドボランティアの川向章介さんのご案内で春の草香山の自然と史跡を訪ねました。近鉄石切駅に集合してから辻子谷コースを進み、途中、辻子谷の水車で、当時水車の動力をを利用して作っていた漢方や胡粉についての説明を受け、川向さんのお知り合いの地元の会社の提供で、全員桂皮（シナモン）をいただきました。後はひたすらに興法寺まで登り、神武天皇ゆかりのシダレザクラを堪能して、また少し登り、こぶしの谷では、満開のコブシの花に迎えられて休憩しました。帰りは、宮川谷コースを下山し、解散しました。全程4km、比較的スローペースで、各所でお話を聞きながら、皆さん、草香山の春の一日を楽しんでいたようでした。



講師の田仲基一氏



講演会の様子



コツを教える新澤貴之氏



完成した和菓子

近づ飛鳥政経研究会会長田仲基一氏により古代氏族物部氏（もののべし）と饒速日尊（にぎはやひのみこと）というテーマで講演会を開催いたしました。饒速日尊は地元石切劔箭神社の御祭神であり、神武東征に先立ち天磐船に乗つて河内国暁ヶ峯（いかるがみね）に降臨したと伝えられています。講演では『日本書紀』『古事記』などの文献に登場する神武天皇と饒速日尊について紹介いただくとともに、河内地方で勢力を拡大した古代氏族物部氏についても様々な言い伝えやアニメ映画との対比などを交えて分かり易くお話しいたしました。参加者からは講演を聴いて地元の歴史に一層興味がわいてきたとの感想が聞かれました。

地域の和菓子店、菓匠庵白穂店長新澤貴之氏指導による和菓子の手作り体験会を開催しました。昨年に引き続いだ2回目となる今回は、練り切り細工による季節の生菓子2種類（テッセンと朝顔）を作りました。練り切り細工の材料には白餡に砂糖や山芋などを加え、食紅で色付けされた幾種類かの餡を用い、講師の指導により練り切り餡を丸めたり、薄く延ばしたりして形を整え、木製のヘラなどを使って窪みや線を加えたりして花びらの形に仕上げていきます。朝顔の場合は花の形を作った後、最後に緑色の餡を細長く延ばしたツルを巻き付けて完成です。参加者からは、「思っていたより難しかったけど分かり易い指導で、美味しい」など、美味しそうな練り切りが出来ました」との感想が聞かれ、日頃体験するとの少ない和菓子の手作りを楽しんでいただきました。

郷土の歴史講座 —古代氏族物部氏と 饒速日尊—

—〇三年四月九日(日)開催

饒速日尊

古民家で手作り和菓子体験 —〇三年五月十一日(日)開催

地域の和菓子店、菓匠庵白穂店長新澤貴之



旧河澄家HP
イベント情報

旧河澄家HPイベント情報ページ→ <http://www.kyu-kawazumike.jp/eventinfo/>
 Facebook情報ページ→ <https://www.facebook.com/kyukawazumike>
 Twitter情報ページ→ https://twitter.com/kyu_kawazumike
 Instagram情報ページ→ https://www.instagram.com/kyu_kawazumike/



菱田雅之氏と吉田光栄師匠



人形淨瑠璃舞台

東大阪市にある文楽人形工房「雅舎」で、日本の伝統芸能である人形淨瑠璃・文楽の人形を制作している菱田雅之氏をお招きして、人形淨瑠璃の歴史と、文楽人形の制作工程や操作方法などについて講演いただきました。当日は当館板の間であるヒロシキを舞台にして文楽人形の実物を使って詳しく解説をいたしました。菱田雅之氏による乙女文楽の舞台には、吉田光栄師匠による乙女文楽の舞台公演を披露いただきました。乙女文楽では足や手の動きから顔の向きや表情の操作までを一人で操る様子を観ることができ、参加者からは今回初めて乙女文楽について知ることができて大変勉強になりました。

帰りは摂河泉コースを枚岡駅を目指して周辺の野草を観察しながら下りました。小雨の中のウォーキングでしたがガイドなしでは普段見られない野草を見ることができ自然観察を楽しんでいただきました。

自然観察ウオーキングのガイドにより、額田園地のアジサイや周辺に自生する山野草を求めて生駒山山中を巡る自然観察ウオーキングを開催しました。当日は小雨模様のあいにくの天気でしたが、参加者は雨具を準備してもらつて実施しました。コースとしては、集合場所の近鉄石切駅北出口から辻子谷コースで水車の郷を経由して興法寺に至りました。そこから額田園地のアジサイ園で昼食休憩をとつた後、額田園地のアジサイと野草園に咲くニッコウキスゲ、ナルコユリ、タツナミソウなどの野草を観察しました。

峰滝ゼミ企画運営による「鯉のぼり紙飛行機づくり」とアンサンブルビーチエによるコンサートを四月二十三日（日）に行いました。子どもたちと一緒に、折り紙で鯉の紙飛行機を作りました。子どもたちは思い思いに鯉に顔や柄を色づけて楽しんでいました。そして、紙飛行機飛ばし大会を行いました。参加者全員は思いっきり飛ばし、盛り上がりました。上位三名には、ゼミ生が用意したものをプレゼントしました。

最後に、アンサンブルビーチエによる音楽コンサートを鑑賞しました。イントロダクションがあり、子どもたちは喜んでいました。私たちの代になり、初めてのイベントでした。



アジサイ



ニッコウキスゲ



タツナミソウ

生駒山自然観察ウオーキング
二〇二三年六月十一日（日）開催

峰滝ゼミ



紙飛行機飛ばし大会の様子

次回も多くの参加者に来てもらうことを楽しみに待っています。
たが、子どもたちの笑顔で安心します。

畿
学
KINDAI UNIVERSITY



イベント参加者の様子

端午の節句展



玩具の刀を持ち、ダンボール甲冑を着て鯉幟の前で撮影する男の子（※保護者の掲載許可済）

七日（日）の期間に端午の節句展を開催致しました。例年通りの河澄家に伝わる具足（甲冑）、一般の方から寄贈いただいた五月人形や鯉幟（※現在は寄贈を受け付けておりません）を例年と変わらず展示させていただきました。端午の節句は男の子の健やかな成長と幸福を祈る日本の年中行事の一つであり、旧河澄家にとつても、企画展示というよりは、もはや年中行事の一環となっています。展示期間中は、玩具の刀や段ボール甲冑を設置して、旧河澄家のどこでも写真を撮ることができます。展示期間中は、男の子やもちろん女の子も含めて、ご家族で写真を振りに来てくれる方もいて、そんな姿を拝見すると、とても微笑ましかったです。

今年も四月二十二日（土）から五月七日（日）の期間に端午の節句展を開催致しました。例年通りの河澄家に伝わる具足（甲冑）、一般の方から寄贈いただいた五月人形や鯉幟（※現在は寄贈を受け付けておりません）を例年と変わらず展示させていただきました。端午の節句は男の子の健やかな成長と幸福を祈る日本の年中行事の一つであり、旧河澄家にとつても、企画展示というよりは、もはや年中行事の一環となっています。展示期間中は、男の子やもちろん女の子も含めて、ご家族で写真を振りに来てくれる方もいて、そんな姿を拝見すると、とても微笑ましかったです。

さて、毎年開催している端午の節句展ですが、今年は、柏餅と粽（ちまき）について江戸時代の日本下村ではどうだったのか、「日下村森家」庄屋日記から、当時の様子を解説するパネルを追加しました。

年中行事の際には、毎回言及しているかもしれませんが、行事と食べ物は切っても切れない関係にあります。そもそも端午の節句の「節句」とは（端午の節句に限らず、人日の節句、上巳の節句や七夕の節句、重陽の節句も）江戸時代までは「節供」と書き、行事に際して供える食べ物をさしています。現在では、端午の節句に柏餅と粽を食べますが、粽の方の歴史が古く、中国にルーツがあり、日本では平安時代に既に食べられていました。一方で柏餅は、江戸時代に始まり、江戸（東京）を中心広まりました。そのため、江戸時代、ここ日下では柏餅は食べられていませんでした。江戸時代中期、享保年間に河澄家と相庄屋であった森長右衛門貞靖の日記には、毎年、端午の節句の二一三日前に「粽いたし候」とあり、誰と誰が手伝つたなども記され、数人がかりで粽を作つていた様子



床の間に展示した河澄家具

を知ることができます。柏餅については、当時、その存在すら、うかがうことはできません。時代は下って、昭和四十年発行の『枚岡市史』には、年中行事の「タンゴノセツク」について、「五月五日を端午の節句、または男の節句といふ。四日の夜に、ヨモギと菖蒲を束ねて屋根にあげる。家によつてはセンドンを加える。その菖蒲を降ろして、頭痛のまじないとして、女はそれを髪に挿したり、男は鉢巻にしたりした。また柏餅と粽をつくつて食べ、菖蒲湯に入る。」とあるので、この頃にはこの地域でも柏餅と粽の両方が食べられていたことがわかります。現在は、粽と柏餅の両方が食べられるので、食いしん坊には、うれしい限りですね。



おりがみ展

五月十二日（金）～六月十一日（日）まで、おりがみ展を開催しました。折紙創作家坂上慧ミ子氏とその生徒さんの作品を展示するおりがみ展は、今年でなんと六年目を迎えました。折紙といつても、その作り方は複雑で、折る、たたむ、つぶすなどの何十という工程を丁寧に行って作品を仕上げていきます。こうして作られる坂上氏の折紙作品は、この世界にある物なら何でも表現できるというから驚きです。

今回は、額装の折紙作品二十四点、色紙の折紙作品十八点、そのほか、干支を折紙で制作して仕切りのついで箱に納めたものや、バラやアジサイ、ヒマワリなどの花やくす玉などの折り紙を展示しました。坂上氏が古民家に合うようにと、セレクトした折紙作品であるため、毎年、顔を出しているお馴染みの作品も多くありました。

坂上氏と生徒たちが、今回もおりがみ展に来られた方のために、たくさんの折紙のプレゼント（しおり、爪楊枝入れ、今年の干支であるうさぎの絵馬、チューリップの色紙の折紙作品等々）を用意してくださいました。期間中、少なくなつたプレゼントの補充もして下さり、訪れた方は、皆さん喜んで持つて帰っていました。



折紙作品「富岳三十六景神奈川沖浪裏」



折紙作品「百花繚乱」



坂上慧ミ子氏から来館者へ、たくさんの折紙のプレゼント



河澄家の家紋

丸に三つまい沢道

2023年8月～ 旧河澄家 イベントカレンダー

※イベント日程は本誌発行時の予定ですので、都合により多少前後する可能性がございます。詳しくはお問合せください。

昔の道具展 2023 粧いの道具展

5/30(火)
～9/24(日)

河澄家に伝わる道具を紹介しながら、昔の暮らしを知ってもらおうと、毎年、旧河澄家蔵で行っている昔の道具展ですが、今年度は化粧道具、日々の肌ケアや身だしなみの道具を展示しています。日本の化粧史の中で、庶民にも化粧が広まっていたのは江戸時代以降です。今回はそんな時代の庄屋屋敷の貴重な道具を展示しています。

見学無料

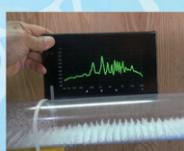


理科モノづくり教室

8/5(土)

特定非営利法人にわ考房 / 近畿大学名誉教授の木村隆良博士を講師に迎え、毎回楽しそうな理科モノづくり教室ですが、今回は色々な吹奏楽器（ダンシングスネーク、フルート、縦笛、サンボーニャ、ホイッスルなど）を作り、音階について学びます。またケント管で音が継波であることや共鳴現象、固有振動などを観察します。

参加無料



東大阪市指定文化財 旧河澄家

所在地 〒579-8003 大阪府東大阪市日下町7丁目6-39
電話番号 TEL/FAX 072-984-1640
ホームページ <http://www.kyu-kawazumike.jp>
開館時間 午前9時30分～午後4時30分
休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）
祝日の翌日・12月29日～1月3日
入館料 無料
駐車場 5台（無料）
満車の場合は、近鉄けいはんな線「新石切駅」周辺の有料駐車場をご利用ください。

見学無料

- ◆アクセス方法
公共交通機関をご利用の場合
・近鉄奈良線「石切駅」より徒歩約20分
・近鉄けいはんな線「新石切駅」より徒歩約20分
・近鉄奈良線「東花園駅」または近鉄けいはんな線「新石切駅」より、近鉄バス「四条嶺行き」または「住道行き」に乗車「南口下」バス停より徒歩約15分
・JR学研都市線「住道駅」または「四条嶺駅」より、近鉄バス「東花園駅前行き」に乗車「南口下」バス停より徒歩約15分

- マイカーをご利用の場合
・旧国道170号線「日下4丁目」交差点を東へ、約600m直進

◆指定管理者 株式会社アスウェル TEL: 072-939-7861
FAX: 072-952-4340

URL <http://www.asuwel.co.jp>
E-mail mail@asuwel.co.jp

切り絵展

7/22(土)
～8/20(日)



宮本順三記念館・豆玩具 ZUNZO/NPO法人おまけ文化の会のご協力で、「オルファ」創業兄弟のひとり岡田三郎氏の切り絵作品などを展示します。オルファと言えば、折る刃式の黄色いカッターナイフ。そのカッターナイフで創作した作品は、見る人が作ってみたくなるような楽しくて優しい雰囲気です。サブローさんの世界をお楽しみください。

見学無料

論語の素読会

毎月
第2・第4
土曜日

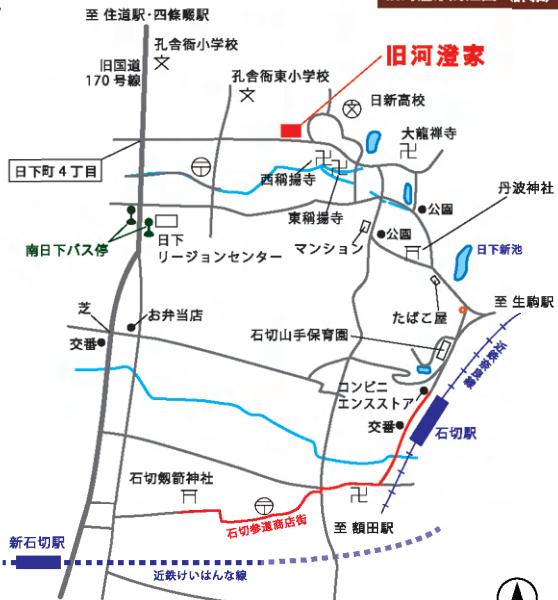


声に出して文字を読む「素読」。

素読は、江戸時代の寺子屋で活用されていた学習方法でした。素読で読む文書として中国の古典「四書」がよく使われています。その中のひとつに「論語」があります。「論語」は、孔子とその弟子の中でも優れた人物たちの言語をまとめた書物で、心を打つ章句が詰まっています。古来から大切にされてきた生き方や考え方を学びませんか？

参加無料

旧河澄家周辺図（詳細）



株式会社アスウェルは、総合ビルメンテナンス会社として、次の認証を取得しています。



JISQ9001:2015(JISQ9001:2015)/全事業所
JISQ14001:2015(JISQ14001:2015)/全事業所
建築物総合清掃保全管理・施設保守管理・建築物
・衛生管理・人材派遣・警備保守・指定管理

